

SSC

埼玉県障害者社会参加

推進

セレブたより

令和2年3月30日 124号

編集

埼玉県障害者社会参加推進センター

〒330-8522

さいたま市浦和区大原3-10-1

県障害者交流センター内

TEL 048-825-0707

FAX 048-825-3070

ssk080321@bz03.plala.or.jp

<http://saitama-shokyo.org/info/>

NPO法人埼玉障害者センター

さいたま市浦和区大原3-10-1

一部 100円(会費に含まれます)

10日・20日・30日

『荒城の月』、 そして『赤いスイートピー』

『ロシア民謡』

埼視会歌声交流会

埼玉視覚障害者の生活と権利を守る会

平野 力二
ひらの りきじゅう

埼視会では、20年余に亘つて会内外に呼び掛け、「歌声交流会」を県の委託事業（生活訓練事業）の一環として取り組んできています。

今年度も2月9日（日）に、

坂戸市の「オルモ」で、実施しました。参加は20人とやや寂しい感はありましたが、ほぼ半数が会員外と例年通りの構成となりました。

会員外の参加が多いのは、この行事の一つの特徴でもあります。

今年は、約20年振りに歌集を再編集して、より幅広い年齢層にも合うようにと工夫もしてみました。当然、このことは、参

加してみなければ判らないことですから、その効果が現れるのは少し先になるものと考えています。

もうひとつ、今回工夫をしてみたことがあります。

それは、参加者全員順番につづつリクエストを出してもらうという方法です。これで曲層に偏りがなくなるのではないかと考えたのでした。

その狙いは、表題にもありますように、いくぶん達成できたのかなと思っています。

楽しく交流が図れるこの行事を、これからも大切にと考えているところです。

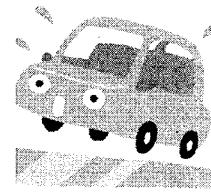


社会参加推進事業

埼身協自動車部会 運転技能講習会

社会福祉法人 埼玉県身体障害者福祉協会

自動車部会相談役 浅見 あざみ 高正 たかまさ



昭和 35 年、道路交通法改正により、障害者の運転免許取得が可能となりました。日常生活をおくる上で、足となる車の運転技術を学び身に着けることを目的として、昭和 52 年 3 月 埼身協自動車安全運転者部会が発足致しました。

平成 8 年 7 月から、川島町交通教育センター「レインボーフ埼玉」にて運転技能講習会を開催しております。

- とっさ時に急ブレーキを掛けると車はどうなるのか？
- 一定速度で走行中、信号が赤色に点灯した時にブレーキを踏んだ時の制動距離の変化は？
- 滑りやすい路面でブレーキを踏んだ時に、アンチロックブレーキシステムがどう働くか？

自動車部会は、これらの車の動きをコントロールすることなどを学び、日々安全運転技術向上に努めています。

埼身協自動車部会では、運転技術を競う「運転競技大会」や「無事故・無違反表彰」「講習会」なども行っています。自動車運転事業にご興味のある方はぜひご参加ください。



運転技能講習会の様子

身体に障害をお持ちの方
「ふれ愛の集い」などのイベントに参加して出会いのチャンスを広げませんか？
★登録相談・お見合いは無料です。

結婚相談事業

相談日：月・水・金

時 間：午前 10 時～午後 4 時

場 所：埼玉県身体障害者福祉協会 事務局内

T E L : 048 (822) 5333

F A X : 048 (831) 6442

令和元年度 合同研修旅行報告

豊かな自然を堪能する旅

埼玉県精神障害者家族会連合会

事務局員 木澤 明江



伊豆潮風館前にて

私は「みんなで旅行を楽しめたらしいね」の気持ちで、1月19日・20日の合同研修旅行に初めて参加しました。2日間とも天候に恵まれ、爽やかな天候のなか、埼玉県のバス「あおぞら号」で交流センターを後にしました。車中から、私たちをエスコートしてくれるかのように何

度も富士山を望むことができ、感慨もひとしおでした。また、愉快な会話で快適な空間となり遠足気分全開です。

そろそろ腹ごしらえしよう。雪景色の河口湖畔のレストランで郷土料理を味わい、身も心も温まりました。

次の富士花鳥園では、100

くの置物のようなフクロウや色とりどりに咲き乱れる花を鑑賞し、心の保養にバツチリ。

異空間から今宵の宿の潮風館に向かい、到着後に早速研修会が行われました。皆さん、大いに盛り上がった有意義な時間を過ごしました。解散後は、豪華な食事や心地よい温泉等で寛

ぎ、ゆったりとした気持ちになりました。

翌朝、3度目の入浴時、窓越しに水平線が赤く染まっていくのを眺めながら、思わず心の中で合掌。胸キュン!!の感動の瞬間です。2日目の最初の予定

は、伊豆三津シーパラダイスで

の見学へ。入り口を入れると巨大なセイウチが出迎えてくれて、結構な迫力でしたねえ。館外施

設に出ると、すきとおつた青空に、海の向こうに白く輝く富士山と、背景に雪の頂の南アルプスを望むことができ、山が好きな私にとって至福の時でした。

お世話してくださった埼障協の皆さん、楽しい旅行をありがとうございました。

次にかねふくめんたいパークで工場見学と買い物を楽しみ、お土産も貰つたことで満足感アップです。最後の伊豆フルーツパークでも郷土料理を楽しみました。連日のごちそう続きで満腹指数120%超えそう。ここで

もまたもや買い物三昧です。

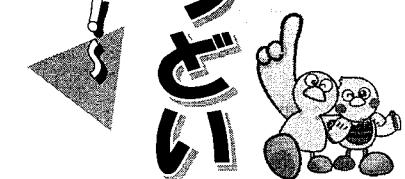
さて、名残惜しいですが、こ



令和元年度 埼玉県障害者レクリエーション活動等実施事業

レクリエーション リラックス セミナー

レクリエーション実行委員 埼玉県障害者協議会 事務局



令和 2 年 2 月 18 日、深谷市人見にある「養護盲老人ホームひとみ園」でレクリエーションのつどいが行われました。ハンドアーチェリー、輪投げ、卓球バレー、動く的に玉入れ、ペットボトルボーリングを実施しました。参加者が A チームから F チームに分かれ各競技を 10 分ごとに回り、施設利用者さん、施設職員さん、レク実行委員一同、楽しみながら声を掛け合い交流しました。

後半は、「頭上大玉風船送り」を行い、2 グループに分かれて競い合い、とても盛り上がりました。競い合い、とても盛り上がりま

令和 2 年 2 月 18 日、深谷市人見にある「養護盲老人ホームひとみ園」でレクリエーションのつどいが行われました。ハンドアーチェリー、輪投げ、卓球バレー、動く的に玉入れ、ペットボトルボーリングを実施しました。参加者が A チームから F チームに分かれ各競技を 10 分ごとに回り、施設利用者さん、施設職員さん、レク実行委員一同、楽しみながら声を掛け合い交流しました。

ひとみ園の職員さんが「年に 1 回のスポーツレクリエーションを施設の皆さんも楽しみにしていました。ありがとうございました」とおっしゃっていて、とても嬉しかったです。

視覚に障害のある方も楽しめるように試行錯誤しながら工夫し、今回初めての試みで、ペットボトルボーリングなど新しい競技を行いました。改善点もありましたが、非常に勉強になりました。

最後にお菓子のつかみ取りをして、今年度のスポーツレクリエーションのつどいは終了しました。



「ハンドアーチェリー」
的に矢が当たった時に音が鳴り得点が出ます。



「卓球バレー」
ボールの中に鈴が入っています。ボールの方向が分かります。



「ペットボトルボーリング」
ペットボトルの中に鈴を入れてピンが倒れた時に音が鳴るようにしています。



「輪投げ」
輪投げの輪に鈴をつけて、投げた時に音が鳴るように工夫しています。



「大玉風船送り」
2 グループに分かれて競い合っても盛り上りました。



「動く的に玉入れ」
的の位置がわかるように籠の中に鈴を入れています。



埼玉県障害者ITサポートセンターを担当して

埼玉県障害者ITサポートセンター

推進員 網野 千晴

長年に亘り勤めた会社を満65歳で退職し、近隣地域へのお手伝いで始めた同行援護による視覚障害者の外出時のガイドをしながら、視覚障害者へパソコンサポートをしている「けやきパソコンボランティアクラブ」に所属していました。ご縁から「埼玉県障害者ITサポートセンター」の推進員の職を前任者の増田隆様から引き継ぎ約1年が経とうとしています。

学校ではプログラミングを勉強し、大型コンピューターのシステムエンジニアとして就職してから約20年間事務系システムの設計から構築・運用に携わって参りました。

その後、パソコンが普及し始めていましたが、サポート

始めた頃に事務職へ異動となつたため最近のパソコン技術に精通していませんが、職場ではパソコンやインターネットを利用しての日常業務でしたので、その経験からパソコンを利用する知識はあると思っています。

ITサポートセンターの業務は、県からの委託契約に基づいて運営する管理業務と障害をお持ちの方やそのご家族からのパソコンおよびそれに関連するサ

ポート依頼に対し、登録ボランティアの協力を得てその依頼に応えると言う大きく区分するとこの二つになると思います。

管理業務については、事務職の経験が役に立ち不安なく引き継ぎが完了しましたが、サポート

引き継ぎました4月から半年が過ぎる頃には、大部慣れ始めまして今では一人でこなせるようになっています。

現在のサポート状況は、Windows 7のサポート終了の時期とも重なり、サポート件数の実績（12月末現在）では前年実績より30%程増加傾向となっています。

また、現場を知ることも大切で運営する管理業務と障害をお持ちの方やそのご家族からのパソコンおよびそれに関連するサ

ポート依頼に対し、登録ボランティアの協力を得てその依頼に応えると言う大きく区分するとこの二つになると思います。

しかしサポート地域が県南に集中していますので、可能な限り県広域でのサポート依頼に応えられるよう広めて行くと共に、今まで前任者が積み上げて來た15年の歩みがさらに積み上げて行けるよう勤めてまいります。

ト依頼については依頼者個人とその内容等を理解すること、その依頼に応えるためのサポートへの手配に慣れるまで時間が掛かりました。

〈埼玉県障害者社会参加推進事業 埼玉県障害者ITサポートセンター〉

場所：〒330-8522 さいたま市浦和区大原3-10-1

埼玉県障害者交流センター内

電話：048-825-2749

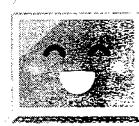
メール：smile04529@bz03.plala.or.jp (メールでもお申込可能です)

HP：<http://www.normanet.ne.jp/~ww100089/it.html>

ご相談対応日：火・木・土 午前10時～午後3時 (祝祭日及び交流センター休館日を除く)

パソコンをお持ちでなくても、触ったことがなくても大丈夫です。

パソコン等の無料貸し出しも行っています。



【加盟団体活動紹介 第十四回】

埼玉肝臓友の会

ウイルス性肝臓病患者が多数の患者会ですが、「賢い患者な るう！」を合言葉として色々な

肝臓病について「病気の原因と仕組み」や「検査方法」「治療

薬」「手術について」と「注意すべきこと」などを学んでいる。

設立年 平成3年
会員数 200名
会員対象



肝臓病の患者とその家族、及び個人賛助会員、法人会員・法人賛助会員
会員対象
「肝臓のなかま・埼玉版 しらさぎ」
年6回 奇数月発行。
東京肝臓友の会発行の「肝臓のひろば」(講演録掲載)を年6回、購入し同封発送。

示一マペーパー

<http://www014.upp.so-net.ne.jp/saitamakanzou/>

目的

昭和39年、ライツシャワー駐日大使が暴漢に襲われて輸血治療した後、肝炎を発症して日本の輸血が問題視された。この事などから、国として肝炎の原因究明や感染防止対策などの治療法について研究を開始。昭和43年にB型肝炎ウイルスが発見され、売血を使っていた輸血は献血に変更された。昭和56年、国は肝炎対策推進室を設置して積極的に肝炎対策を開始。一方で、肝炎患者の中には、ウイルス感染は輸血や止血剤使用と集団予防接種時の注射針使い廻しなど医療行政のミスが原因として肝炎訴訟を起こした。同時期

に、感染患者の救済と治療法・新薬の開発と医療費助成を求め

全国で肝臓病の患者会が設立され、平成3年に全国組織の「日

本肝臓病患者団体協議会(日肝協)」が発足した。同年「埼玉

肝臓友の会」も設立し同組織に加盟して活動を開始した。訴訟

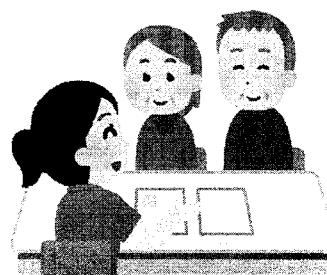
原告団とも共同して毎年行って

来た国会請願が実り、平成21年に「肝炎対策基本法」が成立、以来、治療法と新薬や医療費助成が急速に進んで来ているが、治療が出来ない高齢の患者と重度肝硬変患者や肝がん患者の救済が急がれている。

活動紹介

「医者任せにしない」という「賢い患者になる」ために、最新の治療情報・新薬情報・医療費助成制度などを分かり易く解説、説明した会報誌を2ヶ月毎に発行。また、不定期に開催する「何でも話そう会」という交流会・相談会で直接、会員から

の質問・疑問に答えること。さらに、会員以外の一般市民を対象とした「肝臓病に関する講演会」を年2回開催して肝臓病について理解して貰い早期検査と早期治療の重要さを伝える活動をしている。「肝炎対策基本法」の成立により都道府県毎に「肝炎対策協議会」が設けられており、渡辺会長は埼玉県の協議会委員と肝疾患拠点病院連絡協議会にも参画して埼玉県の肝炎対策に参画している。他に、国、「知つて肝炎プロジェクト」の委員や、日肝協の代表幹事を長く務め、現在は顧問として活動している。



【加盟団体活動紹介 第十五回】

公益社団法人 埼玉県視覚障害者福祉協会

視覚障害者が安心・安全に社会参加できる環境づくりを目指すとともに当事者相互の交流を深める活動を行う団体です。

設立年

▼昭和4年 現団体の前身として埼玉県盲人協会を結成。

▼昭和48年 社団法人認可を受け「社団法人 埼玉県視力障害者福祉協会」となる。

▼平成26年 公益社団法人認可を受け現在の団体名となる。

会員数

190名

会員対象

県内の視覚障害者

発行会報誌

会報誌名『『埼視協通信』

ホームページ

<http://saishikyo.com/>

目的

視覚障害者の生活向上と社会参加を目指し昭和4年に先人が

県の広報誌の点字作成の委託を受け当事者が希望する媒体での情報提供にあたっています。

「ホームからの転落事故を防ぐには利用客からの声かけが大切です」と訴え埼玉県、熊谷市、熊谷市社会福祉協議会、JR熊谷駅、秩父鉄道の皆さんとた事業と情報発信に努め視覚障害者の社会参加を促進することを社会の構築を自立とともに共生社会の構築を促していくます。

結成した埼玉県盲人協会の精神を礎とし、時代の変化に沿つた事業と情報発信に努め視覚障害者の社会参加を促進することを社会の構築を自立とともに共生社会の構築を自立とともに共生社会の構築を促していくます。

活動紹介

平成28年に立ち上げた「同行援護事業所 彩」を運営し、視覚障害者の外出、代筆、代読を支援し微力ながら視覚障害者の社会参加への一翼を担つています。また、社会参加推進事業の一つとして歩行訓練士を希望訓練先へ派遣、白杖の使い方、ポイントの探し方、危険箇所などを指導して単独での歩行ができるよう援助しています。

習会では熊谷スポーツ文化公園を中心に日頃、両手を振つてのウォーキングをすることが少ない視覚障害者が楽しみながら自分のペースで歩き運動不足を解消するともに外出できる機会をつくっています。

平成24年より開催している福

祉大会では視覚障害者が抱えている諸課題について討議し、その内容を県への要望事項とする一方、関東ブロック協議会、全国組織の日本視覚障害者団体連合へとつなげ解決できるよう働きかけを行っています。
日帰り研修、一泊研修旅行は見分を広め、会員相互の交流を深め情報交換の場として多くの会員が楽しみにしている事業となっています。親睦を諮る事業として芸能大会を実施しています。カラオケで自慢のノドや日頃練習している楽器演奏を披露する場となり会員の皆さんができる限り楽しい時間を共有しています。
また、埼視協M1にも事業案内を発信するとともに会員からの意見や情報を発信するツールとして活用しています。このように視覚障害者が抱えている課題に対応していくことと会員相互の交流と理解を深める事業を行っている当事者団体です。

NPO 法人 埼玉県障害者協議会

令和 2 年度(第 40 回)総会のお知らせ

埼玉県障害者協議会は、障害者・難病患者・家族・関係団体とともに歩み、共生社会をめざし、今年 40 周年を迎えました

日 時：令和 2 年 5 月 23 日(土)
13 時～16 時 30 分

会 場：埼玉県障害者交流センターホールにて開催



第 39 回 総会の様子

<賛助会員加入のお願い>

埼玉県障害者協議会の目的に賛同しご協力頂ける、個人及び団体を募集しております。
賛助会員には年 8 回の会報の送付、各種研修会・講演会などのご案内を送付いたします。
賛助会員の会費は、年一口 2,000 円 です。
入会をご希望の方は、右記の口座へお振込み下さい。

特定非営利活動法人 埼玉県障害者協議会

<郵便振替>

【口座番号】
00130-9-673233

【口座名称】
とくてい ひ えいり かつどうほうじん
特定非営利活動法人
さいたまけんしょうがいしゃきょうどうかん
埼玉県障害者協議会

◇編集後記◇

今年度も一年間、センターだより・完全参加と平等をお読みいただきありがとうございました。また、発行にあたりご寄稿してくださった皆様に心より感謝申し上げます。

来年度も変わらぬご愛読のほど、よろしくお願ひいたします。(伊島)